

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日	2000/08/11	19
機能仕様書	患者登録	更新日	_____	
		版数	1	

・患者番号について

(1) 患者番号の構成

患者を識別する方法として患者番号を用いる。患者番号の構成は、各医院でいろいろな運用をもとに決定される項目であるため、システムで柔軟に対応できることが求められる。

システムの導入に際して、患者番号の構成及びチェック方法をシステムに設定する機能を用意する。また、患者番号に使用できる文字として英字、数字、カタカナ及び“*”や“/”などの記号も使用可能とする。

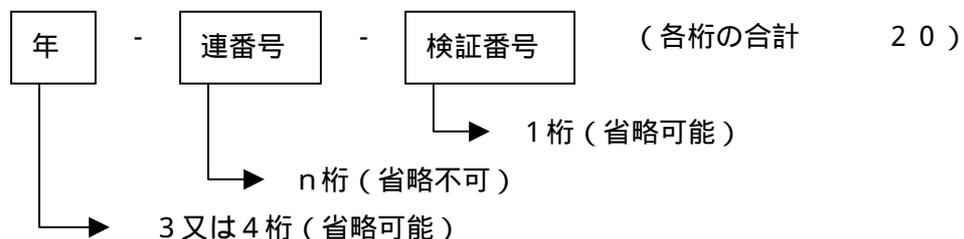
自由構成の場合

各桁の意味は、医院で自由に割り付けることができる。チェックは、患者番号入力時の桁数のチェック及び同一患者番号の存在チェックのみである。

自由構成 (20 桁以内)

標準構成の場合

患者番号の先頭に初めて来院した年を意味する“年”をおき、次に1ずつアップする連番号をおき、末尾を検証番号とする構成をシステムの標準とし、システム設定できるようにする。なお、“年”又は“検証番号”については止めることも可能であるが、“連番号”は止めることはできない。



“年”は、和暦の場合3桁(年号+年)とし、西暦の場合は4桁とする。

“連番号”は、5桁を初期値とする。

“検証番号”は、先頭から検証番号の前までの数字に対して、ある算出方法(モジュラス10)により計算された数字とする。

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日	2000/08/11	20
機能仕様書	患者登録	更新日	_____	
		版数	1	

患者番号のパターンは、

1. 年 + 連番号 + 検証番号
2. 年 + 連番号
3. 連番号 + 検証番号
4. 連番号

の4通りとなる。

拡張構成の場合

標準構成を拡張した構成として、患者番号の先頭と末尾に自由な番号をつけられるようにし、間に“連番号”をおく構成とする。



先頭と末尾の“フリー”については、止めることも可能とするが、両方とも止めることは不可とする。

患者番号のパターンは、

1. フリー + 連番号 + フリー
2. フリー + 連番号
3. 連番号 + フリー

の3通りとなる。

(2) テスト患者番号

医療保険法の改正などで、システムのテストを行うために、保険請求の対象外となるテスト患者をシステムに設定する。テスト患者は、ある程度の件数を確保することが予想されるため、患者番号で開始と終了の範囲を設定する。患者番号は様々な構成があるため、文字列の大小比較でテスト患者かどうかを判別する。

(3) 患者番号の自動付番

患者番号の構成にもよるが、“年”、“連番号”、“検証番号”については、システムで自動的に付番することで患者番号の管理を行う。

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日 2000/08/11	2 1
機能仕様書	患者登録	更新日 _____	
		版 数 1	

“年”は、システムで管理している診療日から、和暦年あるいは西暦年を取得することができる。“連番号”は、システムで管理し取得する度に1ずつアップして発生させることができる。また、患者番号の先頭に“年”をおく構成の場合は、年が変わる毎に、“連番号”を1から振りなおすこともできるようにする。最初からの

通

し番号にするか、年毎の通し番号にするかは、システムに設定できるようにする。よって、桁のなかに患者の属性を表すような意味（男女の区別あるいは本人家族とか）を付ける場合は、自動付番はできなくなるので、その場合は、拡張構成を選択し“フリー”の部分に意味する桁を設定する。

自動付番のキックは画面構成にもよるが、基本的にテンキーボードの操作で行う。
例) 患者登録処理の患者番号入力で“*”を入力すると患者番号が発生する。

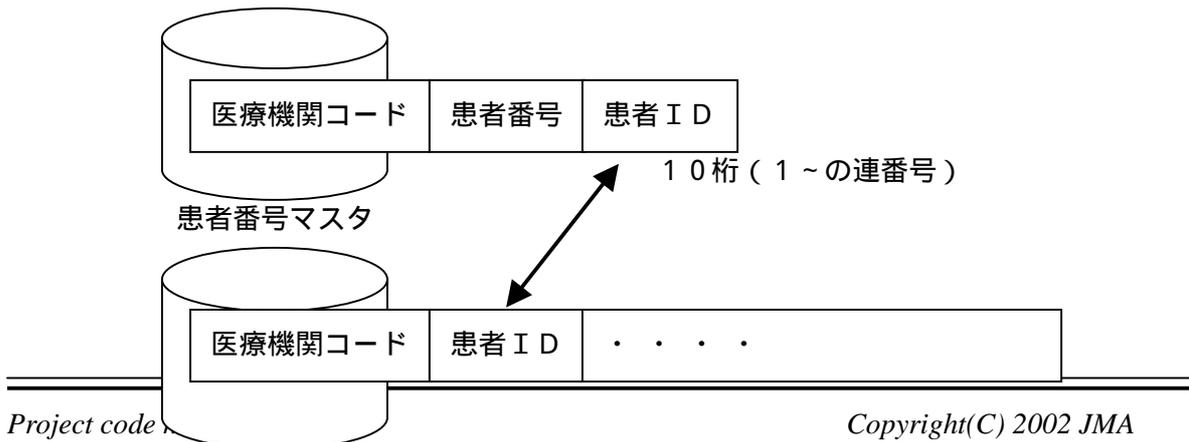
患者番号 (Enter)

患者番号

患者番号は、ときどき患者にとって希望しない番号になる可能性がある。患者によっては、患者番号の変更を申し出られる場合があるので、現在の患者番号を新しい番号に付けかえることができる。又、診察中止等で不要の患者番号については削除を行うことができる。

(4) 患者番号と各マスタの関係

患者番号は、「患者番号マスタ」というテーブルで管理され、実際の患者情報が格納されたマスタとは、“患者ID”という別の番号で連結される関係にある。

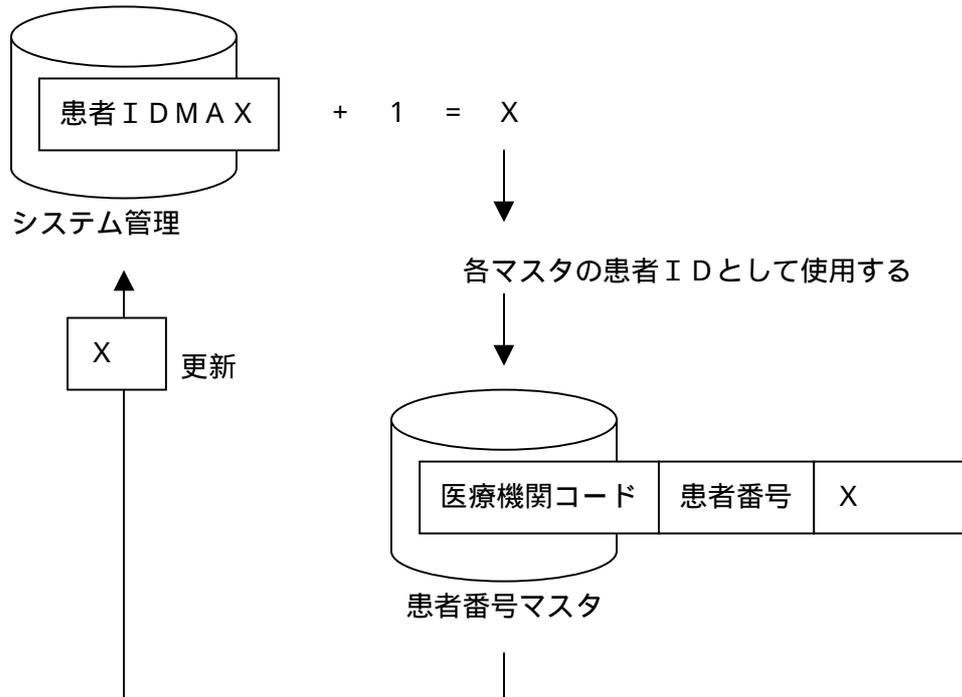


各マスタ

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日 <u>2000/08/11</u>	2 2
機能仕様書	患者登録	更新日 _____	
		版 数 <u>1</u>	

“患者ID”は、1からの連番号で、現在使用済みの最大番号が、システムで管理されている。新規の患者を登録する度に1つつアップして、各マスタに付ける。

新規患者登録の場合



・患者属性について

(1) 患者氏名の入力

外国人の登録に対応できるように、読み仮名及び漢字氏名の項目は、桁数を多めにとりアルファベットの入力ができる。

システムは、日本語項目の入力には特別な機能を用意していない。F E Pの機能

でカバーする。推奨するF E Pは、A T O KとC A N N Aとする。

(2) 通称の対応

外国人の場合、「通称」で呼び合う習慣があるため、通称の項目を設けて登録できる。

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日	<u>2000/08/11</u>	2 3
機能仕様書	患者登録	更新日	<u>2001/04/01</u>	
		版数	<u>2</u>	

(3) 旧姓の履歴管理

同一患者の複数登録を防ぐため、旧姓の履歴管理を行う。名前が変わったことが確認できた時点で登録を行うので、変更日(履歴管理日)は登録日とし、カナ氏名、漢字氏名及び通称を登録し管理する。

また、患者登録画面には、最近の旧姓を1つ表示する。

(4) 患者状態区分

患者の状態や訴えの内容が、一目で判別できるように状態区分の項目を複数設けて、登録ができる。状態区分の内容は、各医院で自由に設定を行う。

例) 身体障害者の場合、障害の内容を一目でわかるようにする。

状態区分	障害内容	表示単語
1	耳が聞こえない	耳
2	歩行が困難	足
3	目が不自由	目

. 同一患者チェックについて

(1) 同一患者の判断

カナ氏名、性別、生年月日の項目を条件として、すべて同じ内容である患者が登録されていたら同じ患者の疑いがあるので、対象患者の属性情報(漢字氏名、住所、電話番号、保険者番号など)を一覧表示しオペレータに判断を委ねる。

また、名前が変わっている場合があるので、旧姓の項目も対象とし同様に検索をかけて、該当があれば候補として一覧表示を行う。

. 住所入力について

(1) 住所マスタ

システムは、住所マスタを提供する。住所の再編成が行われた場合は、センター

でマスタの登録が行われ、ネットワークにより変更情報が配信される。
住所マスタの項目には、自治省で制定されている住所コードを持ち、入力された住所に対応する住所コードを、患者の情報として登録する。

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日	2000/08/11	24
機能仕様書	患者登録	更新日	_____	
		版数	1	

(2) 郵便番号検索

住所の入力は、郵便番号を入力した時点で住所マスタを検索し、一致するデータがある場合は、先頭から“字(あざ)”までの文字列を、住所フィールドに自動的に挿入する。複数候補がある場合は、対象の一覧を表示しオペレータに選択入力させる。

(3) 町名検索

住所の入力は、郵便番号からの検索の他に、住所の読み仮名を入力して住所マスタを検索する方法でも行える。

(4) 手入力

住所マスタを検索せずに、直接住所フィールドに入力できる。また、直接入力された場合は、できる限り住所マスタを住所で検索して、住所コード、郵便番号を取得する。郵便番号については、郵便番号フィールドに表示する。

(5) 周辺住所一覧

住所検索指示により、医院周辺の住所一覧が画面内に表示されて、該当の住所があれば選択入力できる。医院周辺の住所一覧に表示する対象は、システム管理に自由に登録が可能。

・ 所得者の履歴管理

(1) 老人低所得認定期間の管理

老人で低所得者の対象の場合は、認定期間を登録し管理する。低所得者であるか否かは年によって変わる場合があるので、履歴管理を行う。

(2) 老齢福祉年金期間の管理

老齢福祉年金の対象の場合は、期間を登録し管理する。年金対象者であるか否かは所得等によって変わる場合があるので、履歴管理を行う。

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日 2000/08/11	2 5
機能仕様書	患者登録	更新日 _____	
		版 数 1	

. 紹介病院情報の履歴管理

(1) 医療機関マスタ

システムは、医療機関マスタを提供する。医療機関の異動があった場合は、センターでマスタの登録が行われ、ネットワークにより変更情報が配信される。紹介元あるいは紹介先の医療機関情報は、この医療機関マスタを検索し情報を取得する。

. 保険及び公費について

(1) 保険者マスタ

システムは、保険者マスタを提供する。保険者の異動があった場合は、センターでマスタの登録が行われ、ネットワークにより変更情報が配信される。

(2) 保険者情報の表示

保険者の情報は、保険者番号より保険者マスタを検索し、該当があれば主保険の近辺に保険者名、住所、連絡先を表示する。

(3) 保険の管理

システムは、保険の内容をシステム管理に登録する。全国で共通の保険については、センターから提供される。各保険及び各公費に管理番号をつけて管理され、識別しやすいように法別番号を項目として設け、法別番号があるものはそれを登録する。また、保険、公費の組合せによる優先順位や、負担割合などの情報を管理する。各自治体により運営される医療費助成制度（地方公費）については、センターからは保険情報を提供しないので、各医院で該当保険を登録する。

治験、自費又は自賠償などは、特別な管理番号をつけて予めシステムで用意する。

自費、自賠償については、各医院により1点単価を自由に設定を行う。

(4) 保険情報の入力

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日 2000/08/11	26
機能仕様書	患者登録	更新日 _____	
		版数 1	

保険及び公費の入力については、法別番号をもつ保険については、「保険者番号」、あるいは「負担者番号」を入力した時点で、システム管理で登録されている保険情報と関連つけることができるが、法別番号をもたない保険については、保険情報として登録されている“保険名”を一覧表示し、オペレーターに選択入力させる。また、年齢が70歳以上であったら“老人保険(法別番号27)”が自動的に挿入される。15才以下の場合「本人家族区分」が、“家族”となる。

(5) 検証番号チェック

保険者番号、負担者番号、受給者番号などの検証番号を計算し入力された番号が正しいかチェックを行う。システムが間違いであると判断した場合は、オペレーターに注意を促し訂正の判断を委ねる。エラーであっても注意レベルのため、登録は行う。保険の情報は、システム管理に登録されているが、検証番号をチェックするかどうかのサインを管理する。このサインが、“チェックしない”となっている場合

合

は、検証番号チェックは行わない。

(6) 保険情報の履歴管理

保険及び公費の情報については、同じ保険の種類であっても有効期限が更新された場合や記号・番号が変更になったなどの変更に対して、現在登録してある保険情報を上書きして登録せず、有効期限を切って新たな保険として登録を行う。ただし、入力ミスの場合は、この限りではない。よって、保険情報は履歴管理され、過去の情報でもその時点の正しい情報で照会できる。

(7) 保険の組合せ登録

入力された保険及び公費の中から、現在有効である保険を組合せ、保険組合せ番号をつけて登録する。これは、システムが自動的に作成するが、地方公費の扱いなどのため、すべて正しく生成できない場合が想定されるので、オペレーターが設定

できるようにする。診療会計あるいは収納管理などでは、この保険組合せ番号を使用し視認性を確保する。

1つの組合せは、主保険+公費(従保険)4つで構成される。給付割合については、組合せによりシステムが自動的に設定を行う。ただし、これも地方公費の扱いのため自動設定できない場合があるので、オペレータが設定を行う。

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日	2000/08/11	27
機能仕様書	患者登録	更新日	_____	
		版数	1	

(8) 保険の確認チェック

当月はじめて来院された場合、保険証の提示を求めるが、多種の理由により確認できないことがある。そのまま間違った保険で請求するのを防ぐために、保険確認がされていない場合、その旨のガイダンスを表示し、オペレーターに注意をさせる。保険の確認ができたなら該当の保険情報に、当月確認済みの入力を行う。

・患者受付について

(1) 受診科の登録

患者が受付へ来られたら、患者番号と当日受診する診療科と行為内容及び希望ドクターを入力する。行為内容とは、“診察”、“投薬”、“注射”、“リハビリ”などを表

す。また、初めて受診する診療科でカルテを作成する場合、カルテ号紙の出力指示をこの機能で併せて行う。また、院外処方を発行する医院については、処方せん

の頭書きの出力指示もこの機能で行う。

(2) 受付した患者の一覧

当日来院され受付登録された患者情報は、受け付けた順番に画面に一覧表示さる。患者氏名、行為内容、受付時間の他に、患者の状態区分を表示する。日次業務すべてにわたってこの受付一覧の表示を行い、各業務画面の患者呼び出しにこの一覧の中の患者を選択すれば、選択した患者の情報が画面に表示される。

受 付 一 覧						
Project code name	1	日医 太郎	内科 診察	Dr.岡田	8:44	会計済
	2	日医 花子	内科 薬		9:02	会計済
	3	総研 次郎 足	整形 リハ		9:09	会計済
	4	総研 三郎	循環 注射		9:15	
	5	総研 あみ 誕	内科 診察	Dr.岡田	9:22	
		.				
		.				

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日 2000/08/11	28
機能仕様書	患者登録	更新日 _____	
		版数 1	

(3) 受診歴の確認

患者が受診した情報を履歴管理する。受診科ごとに初診日、最終受診日が1画面で確認できる。また、詳細情報として、いつ、何科を受診したかを時系列に表示し確認できる。

. カルテ1号紙について

(1) カルテ1号紙の出力

カルテの発行指示に従い、登録された患者情報よりカルテ1号紙の頭書きを行う。カルテの様式(A4サイズ)は標準的なものを1つ用意しユーザーによる様式変更は原則行わない。

患者登録画面又は、患者受付画面より出力指示を行い、いつでも再出力できる。

. 処方せんについて

(1) 処方せんの出力

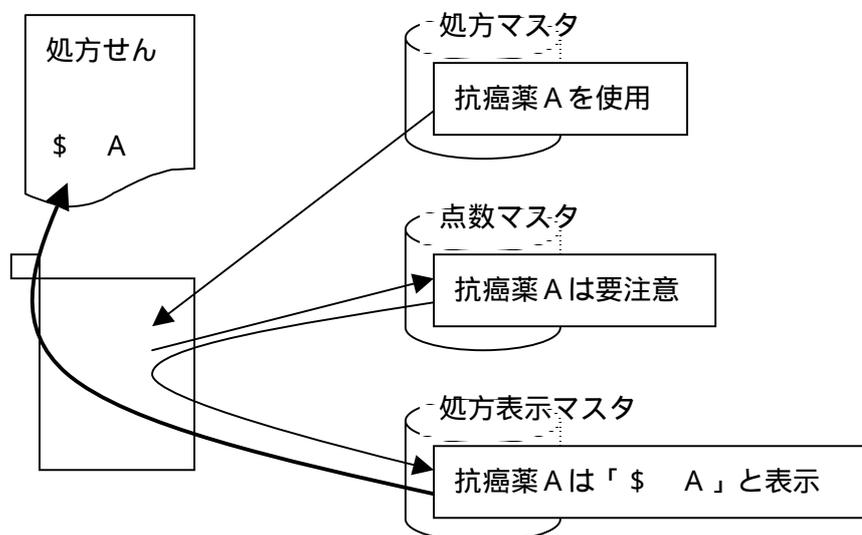
登録された患者情報及び処方情報より処方せんの出力を行う。出力時の指示として診療科、保険を指定するが、再来の場合は前回の情報があるので、初期値として前回受診日の診療科及び保険を表示しておく。初診時または新しい診療科にかかる場合は、処方欄は空白で頭書きのみ行う。再診時は前回までに投薬されていれば処方の内容を表示する。

診療行為入力で服用方法を入力する。また臨時処方等の次回処方せんに印字する必要のないものは表示をしない。

基本設計	日次業務 - 受付業務	作成日 2000/08/11	29
機能仕様書	患者登録	更新日 _____	
		版数 1	

(2) 薬剤の表示名

処方せんに表示する薬剤名は、患者の目に触れるものであるため、“抗ウイルス薬”や“抗癌薬”など、特に注意が必要となる。通常は商品名で表示を行うが、注意が必要なものは、別の名前あるいは記号などで表示必要がある。また、FAXサービスにて調剤薬局へ送信する内容は、すべての医薬品が商品名で記入されたものを扱うが、患者に渡す処方せんは、別名または記号とする。この機能は、予め医院と調剤薬局で規則を決めておくことが重要である。



XI . その他の項目について

(1) 減免

医療機関の都合により、患者負担を軽減する場合があります。減免の項目を設けて減免率を入力する。また、定額払いの場合は該当金額を入力する。

(2) 禁忌、アレルギー、感染症情報

患者の禁忌、アレルギー及び感染症情報がある場合は、詳細を禁忌情報に入力を行う。これらの項目は、患者登録画面の基本情報画面にて情報の有無確認ができる。